

『就活生のキャリア相談員』

黒西 潔 In¹⁹

神戸大学工学部 計測工学科を1980年に卒業し、東洋工業（現：マツダ（株））に就職しました。

以来、41年（定年退職後の雇用延長：5年を含む）、2021年にマツダを完走／卒業し、現在縁あって、広島大学のグローバルキャリアデザインセンターで、セカンドライフ（セカンドキャリア）として、「就活生のキャリア相談員」（客員講師）をしております。

マツダでは、35年半、エンジン開発エンジニアとして、世界で唯一マツダが開発している3種類のエンジン：ロータリーエンジン／レシプロガソリンエンジン／ディーゼルエンジンの開発に取り組み、開発のプロセスでいえば、企画から認証まで、技術の切り口でいえば、先行技術開発から市場の品質改善まで、網羅的に経験を積むことができました。

また、定年退職の半年前から雇用延長終了までの5年半、「ずっとエンジニアだけだと世間知らずになるかも。60歳定年後は新しい仕事で視野を広げたい。」の想いから、タイミングよく社内FAで募集のあった「人事：採用」のポストに応募し、人事本部にて技術系社員の採用を担当しました。5年間で1000名以上のエンジニアの卵たちの入社に携わってきました。

上記の経歴、エンジンエンジニア～人事採用、と言う、言ってみれば稀有な経歴で、マツダを卒業したことも相まって、これもたまたま退職前に広島大学のHPで見つけた、「就活生のキャリア相談員」に応募し、何と64歳で採用面接を受けて、晴れて合格、キャリア相談員のセカンドライフが始まった訳です。

現在は、週2回、広島市内の自宅から、東広島キャンパスまで自動車通勤し、グローバルキャリアデザインセンターの事務所から学生さんとはオンラインで繋いで、キャリア相談を行っています。

キャリア相談の内容は様々で、就職活動真っ只中のB4/M2生の「エントリーシート（ES）の添削」、「面接練習」と言った、採用試験そのもののサポートから、これから就職活動を始めるB3/M1生（以下の方も含めて）の一般的な進路相談にも乗っています。

ここで気を付けている点は、私と40歳以上も歳の違う学生さん相手にディスカッションするので、「価値観の違い」は、当然あるものとして、自分の価値観だけを押し付けないように自戒しています。

それでも、相手はまだ学生さんなので、視野の狭さ／視点の低さは、社会経験の無さからも否めない方が多いので、様々な「禅問答!?!」を仕掛けながら、自らの良さに気付いてもらい、視野を広げ、視点を上げてもらうようにしています。

禅問答①:「問題」と「課題」の定義は!?!

学生さんのES（その中でも、いわゆるガクチカ※学生時代に力を入れたこと）には「問題解決」のエピソードが多いです。私としては「課題達成」のエピソードを書いて欲しい。ので、「問題」と「課題」の定義を聞いてみます。多くの学生さんは聞かれるまで意識していなかった学生がほとんどです。

そこで、「これは黒西個人の定義」と断ったうえで、「問題」とは本来あってしかるべきレベルにも達していないこと、英訳すればproblem（問題）とかdefect（欠点）と考える。一方で、「課題」とは目標／あるべき姿／理想にアプローチすること、英訳すればchallenge（挑戦）だと考える。ただ、目標／あるべき姿／理想だけを話していると「夢見る夢子ちゃん」で終わってしまうので、しっかりと目標／あるべき姿／理想と現実のギャップ（できていることとまだできていないこと）を認識し、このギャップ（を埋めていくこと）が「課題」と考える。

なので、ガクチカも「問題解決」のエピソードではその後の成長が期待できないけれど、「課題達成」を意識したエピソードが書ければ、目標に向かって成長を続ける姿が見えてくるでしょ!!とアドバイスしています。

禅問答②:「挑戦」の定義は!?

上記と関連するのですが、自分の強み（自己PR）は「何事にも挑戦すること」や「チャレンジ精神旺盛」と書いてくる学生さんは多いので、その際にも「挑戦」の定義を聞きます。

たいていの場合、「これまでやったことのないことにトライすること」と答えてくれます。ので、すかさず「じゃあ、バンジージャンプって、挑戦?!」と意地悪質問で返します。これにも「挑戦だと思います。」と皆さん答えてくれます。

ここで、改めて、禅問答①の内容を踏まえて、ここも黒西の定義と断ったうえで、「挑戦とはありたい自分へのアプローチ」じゃないの!?!と返します。

なので、「何事にも動じない自分が、ありたい自分」と考えている人にはバンジージャンプは挑戦かも知れないけど、私にとってはバンジージャンプは、それをやってもありたい自分には近づかないので、挑戦ととらえていない、と種明かしをします。目標を持った上で、「挑戦」しましょうね!!とアドバイスしています。

禅問答③:手段と目的

特に、大学院生の「研究概要」で、研究でやっていることを一生懸命説明してくれる学生さんがいるのですが、「その研究の社会的意義は何?!この研究が成果を上げた暁にはどんなうれしいことが実現するの!?!」と聞くと、う〜んと唸り始める学生さんが少なくありません。

学生なので、勉強／研究することが本分なので、それを頑張っていることは称賛しています。ただ、就活生となった時点で、自身の勉強／研究すらも「手段」と捉えた時に、何を「目的」に勉強／研究しているのかを意識して、平易に語れるように準備することをアドバイスしています（高校生に分かるレベルで、とリクエストしています）。

上記のようなキャリア相談の中で、「企業内定の報告」に来てくれる学生さんがいます。たいていの場合は「常連さん」で、相談に来てくれていた学生さんです。他の方々は知らない内に相談に来なくなるので、それはそれと良い結果に繋がったものと考えています。

内定報告に来てくれた学生さんには「自分の良さを余すことなく発揮して、よく頑張った」ことを褒めます。が、一方で、これがゴールではなく、スタートであることも伝えます。併せて、入社までの疑問点などあれば、すべて答えます。

その上で、年寄りの自慢話にならないようにと断ったうえで、「贈る言葉」を贈っています。

私の贈る言葉は「成長のモデル」です。キーワードは「細いけれど天井まで届いた柱」です。

私と、内定を勝ち得た学生さんとは対象的な立ち位置にいます。すなわち、学生さんはこれから約40年社会で働くわけですが、一方、私は既に約40年働き終わった人です。

なので、学生さんは反論しにくい立場なので、ちょっとずるい関係になるのですが、私には私の会社人生活を振り返ることができます。すると、こんな私でも会社生活で「成長」してきた実績があって、具体的には「内燃機関」「統計解析」「英語」「新卒採用」の4本の柱を建てて、この領域ではプロとしてやってきたと言えるのですが、この柱を建てる段階で、今振り返るからこそ分かる共通のプロセス、つまり「成長のモデル」があったことを認識できます。

これらの自分の柱（バックボーン）になった領域は、それぞれきっかけは違うのですが、どれも最初は苦戦して大変な思いをして自分のものにしていった訳ですが、あるところまで行くとフツと「山を越えた感」を感じて、そうなって気付くと「課で一番詳しい人」とか、「限定的な領域ではあるものの、会社の代表として対外的に物申していく人」とかになれていて、自分の中で、「細いけれど天井まで届いた柱」ができます（これも、この時点では本人も気づいていなかったと思います）。ただ、そうなるというんな意味で「相手の頼られる存在」となって、フォローの風が吹いて、細かった柱はあらゆる機会以太くなっていき、最終的には自分の会社生活を支えてくれる「柱」になったと考えています。

上記を「成長のモデル」として、これから社会人となる学生さんに伝えます。「それって、要するに、自分の得意領域を作るには人よりも一倍勉強せよ!!って、言ってるだけですよね!?!」と言われそうなのですが、「細いけれど天井まで届いた柱」になるまで頑張ろうね!!と言うエールを送っている積もりです。

ここまで、私のセカンドライフとしての大学の「キャリア相談員」としての基本的な考え方を書いてきました。

自分の考え方に従って、学生さんには、「高い目標／理想を掲げて、それに向けて粘り強く努力／挑戦する人になってください。」と伝えています。

中にはこの人物像を既に実践している方、キャリア相談でディスカッションする中で、自分もこのプロセスに当てはまって頑張っていることに気付く方もいます。

基本的には、相手の学生さんが持っている物以上は出せないなので、その方の良さを最大限引っ張り出して、本人に気付かせること、加えて、教えて、私の価値観ではあるけれども、私の「ものの考え方」を共有して、共感できるのであれば、参考にしていただければ幸いと考えています。

最後に、学生さんには「理想を描いて粘り強く挑戦」と言っている訳ですから、私のキャリア相談員としての理想は何か!?!と聞かれた場合に答えを持っていなければと考えております。

私の理想は、キャリア相談後に、学生さんには相談に関するアンケートをお願いしていて、最後の所にフリーコメントを任意で書いてもらう欄があるのですが、ここに、

「キャリア相談って、ESとか面接対応とかの就活テクニックを教えてくれるところと思って相談に来たのだけれど、相談してみたら、これまで誰も教えてくれなかった「人生の歩み方」を教えてもらった。」

と書いてもらえること、としています。

現在、キャリア相談員2年目：66歳ですが、広島大学：グローバルキャリアデザインセンターに実績を認められれば、1年毎の契約更新ですが、70歳までセカンドライフを続けることができます。

私も、ありがたい自分に向かって、粘り強く挑戦を続けてまいります。

広島大学：グローバルキャリアデザインセンター：キャリア相談 HP

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc/student/consultation>